

特集 3

お問い合わせは

市 民 課

☎42-1805



ジェネリック医薬品を 利用しましょう！

皆さんの薬代に加え、国民健康保険の
医療費も節約することができます。

ジェネリック医薬品とは

先発医薬品（これまで使われてきた新薬）の特許が切れた後に医薬品メーカーが製造・販売する「ジェネリック医薬品（後発医薬品）」は、厚生労働省から「先発医薬品と同等の効能や効果が得られる」と認められた医薬品です。

ジェネリック医薬品の
メリットとは

先発医薬品の研究開発には、長い歳月と莫大な投資費用が薬の値段に反映されています。これに比べてジェネリック医薬品は、すでに有効性や安全性について先発医薬品で確認されていることから、開発期間やコストを大幅に抑えることで、先発医薬品と比べて値段を安く設定することができ、特に慢性的な病気によって薬を長期間服用する方は、ジェネリック医薬品を利用することで薬代の節約につながります。

また、自己負担分を除いた薬代は市の国民健康保険（以下国保）から支払われています。国保は皆さんの国保税で賄われていますので、薬代を節約することで医療費を抑制することができ、国保税の負担軽減や国保財政の収支改善につながります。

ジェネリック医薬品を
利用するには

ジェネリック医薬品を希望する方は、かかりつけの医師や薬剤師に「ジェネリック医薬品を利用できますか？」と伝えてください。

処方せんに記載されているのが先発医薬品であっても、「変更不可」の欄にチェックがなければ、薬剤師と相談のうえ、ジェネリック医薬品を利用することができます。

ただし、すべての医薬品にジェネリック医薬品があるわけではありません。

また、ジェネリック医薬品は先発医薬品と有効成分や効果などは変わりませんが、使用されている添加物が異なることもありますので、アレルギーなどがある方は選択できないこともあります。

「ジェネリック医薬品を
利用できますか？」と
お伝えください。



対象者には「医療費差額
通知」でお知らせ

市では、2月下旬にジェネリック医薬品を利用した場合の「医療費差額通知」（左図）を対象者に郵送します。

対象者は、市の国保加入者で、11月診療分の調剤の中から、慢性疾患などの薬を処方され、ジェネリック医薬品に切り替えることで一定額以上の節約効果が期待できる方です。ぜひ、内容を確認して医師や薬剤師に相談のうえ、ジェネリック医薬品の利用をお願いいたします。

平成 年 月 に支払われた下記薬剤の自己負担相当額に關しまして、同一成分のジェネリック医薬品に切り替えられた場合、少なくとも 701 円以上安くなる可能性があります。

ジェネリック医薬品とは、先発医薬品（新薬）の特許が切れた後に同一成分（同一効能・効果）を持つ安価な後発医薬品のことです。

| 処方箋種別 | 自己負担相当額 | ジェネリック医薬品に切り替えた場合に削減できる自己負担額 |
|----------------|---------|------------------------------|
| バナルジン錠 1.00 mg | 408 | 321～ |
| アーチスト錠 1.0 mg | 236 | 117～ |
| アマリール 3 mg 錠 | 317 | 104～ |
| コニール錠 4 4 mg | 394 | 83～ |
| アクトス錠 15 15 mg | 267 | 76～ |
| 合 計 | 1,622 | 701～ |

※1 お薬に附かった金額のみ表示しております。実際の窓口支払金額には、投薬料・管理料等の別費用が含まれております。

※2 通知書発行時点で、同一成分のジェネリック医薬品に切り替えられた場合の自己負担軽減額をご紹介しております。但し、ジェネリック医薬品は複数存在しますので、金額にも幅があります。

※3 表示されている医薬品は、ジェネリック医薬品が存在し、且つ対象疾患や削減効果などで絞り込みを行っておりますので、服用中の全医薬品が表示されるものではありません。

※4 ジェネリック医薬品への変更方法
ジェネリック医薬品が調剤されている薬剤師に「ジェネリック医薬品への切り替えを希望します。該当のお薬を処方されている医師が調剤されるものではありません。」とお伝えください。また、お薬の内容（適応、効能や効果、副作用など）に関するお問合せについては、ご担当の医師・薬剤師にお問合せ下さい。

※5 本通知書に関する問合せ先 コールセンター 平日（月～金） 時～ 時

市の国民健康保険1人当
たりの医療費

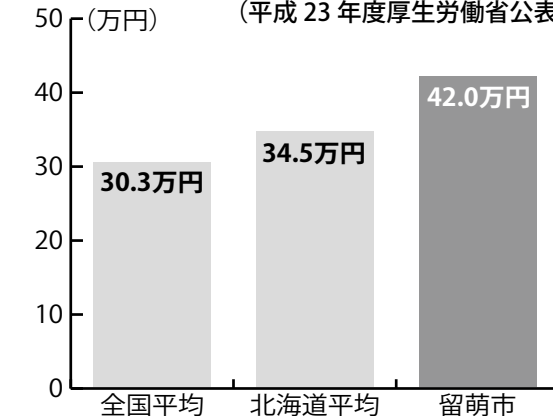
市の国保は、約2億円の累積赤字を抱え、厳しい財政状況にあります。その中で市の国保の医療費は1人当たり約42万円で、全国平均や全道平均と比べて高い状態にあります。市では、高齢化社会や医療の技術向上により伸び続ける医療費を抑制するため、特定健診による病気の早期発見や重症化の予防の取り組みとともに、ジェネリック医薬品を利用し、医療費を節約してもらうために「ジェネリック医薬品希望カード」を配布しています。

▼市が国保加入者に配布している「ジェネリック医薬品希望カード」



60%の利用率を目標に
欧米では広く普及しているジェネリック医薬品ですが、日本における利用率（数量）は平成23年現在で40%程度にとどまっています。厚生労働省ではジェネリック医薬品の利用率（数量）を平成30年3月末までに60%以上に引き上げること目標に普及を進めています。市の国保のジェネリック医薬品の利用率（数量・調剤のみ）は平成25年9月診療分で43.4%です。もし、利用率が60%になると、市の国保の医療費を年間で1,400万円抑制できる見込みです。（北海道国民健康保険団体連合会提供データからの試算）

▼全国および北海道、留萌市の1人当たりの医療費
（平成23年度厚生労働省公表）



Q どんな種類があるの？

A 高血圧や高脂血症、糖尿病の薬など、さまざまな病気や症状に対応しています。カプセル、錠剤など形態も豊富です。ただし、ジェネリック医薬品が無い場合や、アレルギーがある場合など変更できない場合もあります。

Q 効き目は確かですか？

A ジェネリック医薬品は、これまで効き目や安全性が実証されてきたお薬と同等と確認されたうえで、製造、販売が許可されています。

Q どのくらい安いのですか？

A ジェネリック医薬品は開発期間が短くて済むので薬の値段が3割以上、中には5割以上安くなる場合もあります。ただし、変更しても薬代が変わらない場合もあります。

※詳しくはかかりつけの医師や薬剤師にご相談ください。

Q & A ジェネリック医薬品



（出典：厚生労働省）